

留学体験談

これ以外の留学体験談は、ホームページで Check!

〈HP〉「新潟大学 国際交流・留学」⇒「海外への留学」⇒「留学体験談」

▶ <https://www.niigata-u.ac.jp/international/study-abroad/student/>



ショートプログラム (カナダ・サマーセミナー)

農学部 楠生 大樹 さん

私は2024年の夏季休業でアルバータ大学にて、4週間のカナダ・サマーセミナーに参加しました。アルバータ大学はカナダのエドモントンに位置し、非常に広大なキャンパスで学習に励むことができました。私が留学に行った最大の理由は、実践的に英語を使うことができる環境に身を置くためです。普段の生活とは異なり英語を話さざるを得ない環境にすることで、ネイティブの方々の話し方を学び、新たな語学力の問題点を発見できる良い機会となりました。

平日は午前中が授業、午後は街の散策や現地大学生との交流などのアクティビティという流れで過ごしていました。授業は他大学の日本人学生が多く落ち着いて英語を学ぶことができました。主な授業内容はリスニング、スピーキングに重きを置いたものが多く、特に印象に残っているものはグ

ループワークで行うプレゼンテーションです。あるお題について相手に対して何を伝えるべきか、どのような表現をすればよいかなどをグループ内で共に考えることで、実践的な英語力を伸ばすことができました。また毎日課題が課されたのですが、なかでもインタビューの課題が印象に残っており、町中の見知らぬ人に話しかけるのは少し勇気が必要でしたが、現地の方々とは皆とても優しく、インタビューに積極的に応じていただきました。この課題を通じて英語力に自信を持つことができただけでなく、積極性も身につけることができましたと感じています。更に放課後の現地大学生との交流では、日本以外の様々な地域からの留学生ともお話しすることができました。英語を話す経験を積むと同時にそれぞれの地域の文化について知ることができ、とても貴重な時間を過ごすことができました。

今回の留学では想像していた以上に良い

経験となりました。英語力の伸長だけでなくカナダに混在する多くの文化に触れ、刺激を受けることができました。この体験談が留学を考えている皆さんを後押しする一助になれば幸いです。



交換留学 (フランス・ナント大学)

人文学部 池田 ゆりこ さん

私は、ナント大学付属の語学学校であるi-FLEに2学期間、交換留学をしました。留学を決めた理由は、初修外国語で選択したフランス語をより上達させたいと思ったから、フランス哲学に関心があり、現地の雰囲気を感じてみたいと思ったからなど、複数あります。

フランスに到着したはじめの頃は、授業の内容を半分も理解できなかったり、友人との会話についていけなかったりなど、苦しみました。しかし、毎日の学習や友人との会話などを通じて、日常会話には困らないくらい話せるようになりました。

授業は全てフランス語で行われ、文法だけでなく、文学や料理についてなど、多岐にわたる内容を学びました。特に印象に残っているのは、プレゼンテーションやディスカッションが頻繁に行われたことです。受け身ではなく、積極的な姿勢が求

められ、発言する機会が多くありました。その中でも、フランスと自国の文化を比較し発表する授業が特に記憶に残っています。クラスメイトの発表を通じて様々な国の文化に触れ、新たな価値観を得られただけでなく、自分自身が日本とフランスの比較を行うことで、日本の良さを改めて実感する機会にもなりました。

ナント大学の魅力は、様々な国の方と交流でき、異文化を学ぶことができる点だと思います。異なる背景を持つ友人との会話は刺激的で、毎日が発見の連続でした。

長期休暇中には、ヨーロッパ各地を巡る旅をしました。旅先での人々との交流を通じて、各地の文化に触れることができたのは、とても良い思い出です。フランスだけでなく、色々な国を訪れることができるのは、ヨーロッパ留学の魅力だと感じます。

フランスでの生活は、私にとってかけがえのない貴重な経験となり、今後の人生の糧になると思い

ます。留学を考えている方はぜひ挑戦してみてください。応援しています。



ショートプログラム (フィリピンALLC英語研修)

工学部 武藤 燎平 さん

この留学体験記を読んでいる方の中には、留学に絶対行くと強く決めている方もいれば、語学能力に自信がなく、留学に参加するか迷っている方もいると思います。これを書いている私も実は後者の人間で、英語を得意としている訳でも、コミュニケーション能力が長けている訳でもありませんでした。そんな自信のない私でしたが、帰国した頃には、積極性・価値観など、英語の技能に加えて、人として大きく成長できたと実感できました。

成長できた理由として、第一に本留学の内容が充実していることが挙げられます。本留学ではALLCで英語の四技能スキルを学ぶのですが、インタビュー・プレゼンテーションなど、英語を使うことに焦点を当てた授業を体験することができました。初めは英語以前に、人前で自分を表現することをためらっていました。しかし、間違っても適切

にアドバイスをしてくださる先生・クラスメートがいるため、発表することが楽しく感じ、次第に積極性が身につきました。授業外でも、私が滞在していた学生寮(大学近接の民間宿泊施設)では、現地の高校生、同プログラム生、私の三人で暮らしていたため、日常で英語を使うことが当たり前な環境で過ごすことができました。

また、現地の方がフランクに接してくれたおかげで、自分も遠慮することなく、気楽にコミュニケーションを取れたことも貴重な経験でした。寮の管理人の方からコーヒーをいただいたり、寮のジムで出会った人と一緒にトレーニングする仲間になったりなど、現地の方との何気ない触れ合いが留学の大切な思い出となりました。

不安を抱いて参加した留学だったのですが、充実した留学内容と、留学時にできた大切な友人のおかげで、自分を大きく変える経験が得られました。留学をするか迷っている方も、一歩踏み出して参加されることをオススメします!



交換留学 (アメリカ・ロードアイランド大学)

医学部保健学科 田中 結 さん

私は大学2年の9月から翌年5月下旬まで、アメリカのロードアイランド大学に交換留学生として在籍していました。将来海外で助産師としてお産に携わりたいという思いがあり、そのためには英語力の向上が必須と考えたからです。

留学中の2学期間に8つの講義を履修しました。そのうち6つが女性学関連で、学期を通じて様々なトピックを女性学から捉えることができました。例えばラテンアメリカの伝統的な女性の価値観やLGBTQ+への偏見を批判的に検討する授業では、ヒスパニック女性が登場する人気ドラマや映画を題材として、彼女たちに貼られるレッテルを分析しました。また、アフロ・アメリカンを扱った授業ではブルルトコ出身の先生が南北アメリカでの彼らへの偏見・差別を、様々な文献やビデオを用いて説明してくれました。

留学中ではどの授業も初めて学ぶトピックばかりで、しかも英語なので、授業についていけないことやディスカッションに加われないなど悔しい思いをすることもたくさんありました。そんな中でも少しずつ講義に慣れていき、2学期目は授業内で自分の意見を述べ、先生に積極的に質問ができるようになりました。

帰国前には大学近くの病院でボランティアを体験することもできました。アメリカの病院の雰囲気を知ることができ、医療従事者の皆さんや患者さんと触れ合えたのは大きな収穫でした。

2学期にわたる留学は費用も高くなり、新潟大学の卒業も一年遅れるため海外に滞在して、自身の視野が留学前に比べて大きく広がり、いろいろな国の友人を得られたことは、自分にとってかけがえの

ない財産となりました。一人でも多くの新潟大生が海外で貴重な経験を積まれることを願っています。



ショートプログラム (韓国サマーセミナー)

人文学部 小泉 結楓 さん

私は韓国の漢陽大学で約3週間のサマーセミナーに参加しました。私は中学1年生の頃から韓国語を勉強しており、長年、韓国に留学に行くことを目標にしてきました。長期の交換留学も考えていましたが、その前に韓国という国がどんな国なのかを実際に体験したいと思い、サマーセミナーに参加することを決めました。

授業はすべて韓国語で、9時から13時まで計4コマ行われます。すべて韓国語と聞くと、授業についていけるか不安に思うかもしれませんが、先生が私たちの理解度に合わせて授業を進めてくださるため、どのレベルの方でも楽しく授業を受けることができます。また、授業後には文化体験やK-POPの特別授業があり、先生やチューターと一緒に、韓国の文化を実際に体験することができます。毎日韓国語に触れながら生活するので、語学力が向上するのはもちろん、日

本にいただけでは分からない文化面についても深く理解することができるのが留学の醍醐味であると感じました。

留学で最も印象に残っているのは、韓国の方々の温かい人柄です。私は初めての海外だったのですが、優しく道を教えてくださったり、お店でサービスしてくださったりと、心温まる経験を多くすることができました。また、私が日本人と分かると「日本が大好きです」と声をかけてくださる方もいて、とても嬉しくなりました。日本に住んでいると、自分が外国人となる経験をすることはあまりありませんが、実際に留学して、外国人としての立場を経験したことで、日本にいる外国人への接し方をより意識するようになりました。

最後に、漢陽大学で過ごした3週間は本当にあっという間でした。最初は不安もありましたが、一緒に行った仲間と支え合いながら、大好きな韓国語に囲まれて、非常に充実した時間を過ごすことができました。また、留学前と後では物事に対する考え方も大きく変わり、この経験は私の人生にとって貴重な財産

となりました。皆さんも、ほんの少し勇気を出して、留学に挑戦してみてください!



トビタテ!留学 JAPAN 新・日本代表プログラム (ドイツ・オーストリアの農場でインターンシップ)

農学部 田辺 大貴 さん

僕は、普段は農業をしていない人でも自然や命を感じ、「生きる」ということについて改めて考える体験ができるような農業をしたいと考えています。そこで、家畜の糞を肥料として利用し作物を育てるという、自然の循環を利用して農業を行う「循環型農業」と、普段は都市部に暮らす人が休みの日に農村に滞在し農作業を体験する、観光と農業を組み合わせた「アグリツーリズム」について学ぶため、ヨーロッパ(ドイツ・オーストリア)へ留学しました。

現地の大学へ行って授業を受けるような一般的な「留学」ではない留学でも支援を受けられるのがトビタテの特徴の1つで、実際僕も大学へは行かず、3か所の現地の農場で農家さんのもてで研修を行い、餌やりや家畜小屋の掃除をはじめとする様々な作業をし、家畜の飼育に関しては物事に対する考え方も大きく変わり、実際に自分の目で見て、五感

で感じることで「リアル」を知ることができました。「どのようにしてそれらの農業が成り立っているのか」「なぜそれらの農業が普及しているのか」といった要因や背景というのはインターネットなどには載っておらず、現地に行ってみなければわからないことを知れたのは、自分の人生において大きな経験になったように思います。また、留学を経て「これから何を学びたいのか・学ばなければならないのか」「将来何をしたいのか」ということがよりはっきりとしたものもよかったです。

異国の地で生きるということは、想像したようにいかないことも当たり前にあります。でも僕は、うまくいかなかったっていい、きれいになんてやろうとしないでいいと思います。むしろ、うまくいかない経験だったりそのときの感情こそが、その後のきっかけとなり、自分という人間がつくられていくのだと思います。人生は一度きりで、時間には限りがあります。4年という長く短いモトリアム期間にいる今、少しだけ大きな一歩を踏み出してみようと思います。

